



測定開始

POWER・キー④を押します。
デジタル表示部①に電池の残量が“**b 0**”～“**b 9**”迄の数値で表示され、次に形式(例70A等)が表示されます。風速値が表示されると測定可能な状態です。
“**b 0**”が点滅表示された場合は電池を交換してください。

風速測定

検出部⑩を手前にまっすぐ引き、検出部クリップ⑪から取り外します。先端の部分が風速を感知します。検出部の風向マーク(青点)を風の上流に向け、風の流れに対して直角に支持することにより、正しく測定することができます。

1)オートレンジ機能

本器は自動的に測定レンジが切り換わるオートレンジ機能を採用しています。測定機能表示部⑨は現在測定中のレンジを表示します。
◎ 測定範囲を超えた場合の表示については「オーバーレンジ・アンダーレンジ表示」の項を参照してください。

2)デジタル・アナログ同時表示とホールド機能の活用

風速はデジタル表示部①とアナログ指示部②で同時に表示します。デジタル表示部①の変化が激しい場合はアナログ指示部②でパターンとして認識し、デジタル表示部でホールド機能を使って読み取ることが効果的です。

HOLD・キー⑤は押すたびに“ホールド”と“解除”を繰り返します。ホールド中はデジタル表示部①の表示がホールドされ、測定機能表示部⑨が点滅します。アナログ指示はホールドされることがなく、風速のパターンを読み取ることができます。

温度測定 (DP70B)

m/s
°C・キー⑥を押すと測定機能表示部⑨が“°C”に切り換わります。デジタル表示部①に検出部⑩付近の温度が表示されます。この時、アナログ指示部②は温度測定に切り換える直前の風速指示をホールドします。
このことを利用して、“風速→温度”の切り換えをタイミングよく行なえば、風速および温度の同時測定も可能です。
風の少ない場合は検出部⑩を軽く振れば速く温度の測定ができます。
◎ 測定範囲を超えた場合の表示については「オーバーレンジ・アンダーレンジ表示」の項を参照してください。

静圧測定 (DP70C)

付属の静圧アダプタ⑮のナットを少し緩めて検出部先端が止まるまで充分に差し込みます。検出部後端金具と静圧アダプタの黒線を一列に揃えてナットを締め付けます。
測定する場所、例えばダクトなどに径10mm程度の穴を開けた所にアダプタのゴム皿の中央にあるオリフィスを入れます。

m/s
Pa・キー⑥を押し、測定機能表示部⑨が“Pa”になるのを確認します。デジタル表示部①、アナログ指示部②に静圧が表示されます。アダプタの頭部オリフィスで+圧、側面オリフィスで-圧が測れます。
◎ ホールド機能の活用については風速測定「2)デジタル・アナログ同時表示とホールド機能の活用」と同様です。
「風速」を「静圧」に読みかえて参照してください。
◎ 測定範囲を超えた場合の表示については「オーバーレンジ・アンダーレンジ表示」の項を参照してください。
◎ 静圧アダプタ⑮には検出部⑩と同じ番号がつけられています。他の番号のものと組み合わせて使用した場合にはその測定値は保証できません。必ず同じ番号のものをお使いください。

オーバーレンジ・アンダーレンジ表示

測定中、測定値が測定範囲を超えると、以下のような表示でお知らせします。

	風速 (m/s)	温度 (°C)	静圧 (Pa)
アンダーレンジ (下回った場合)	—	ドット “ ”と数値を交互に表示する	
オーバーレンジ (上回った場合)	数値が点滅する		

温度測定中、数値が点滅表示になった場合、検出部⑩保護の為、ただちに測定を中止してください。故障の原因になります。
オーバーレンジ・アンダーレンジ表示中にも数値は変化しますが、その数値は測定結果として保証されているものではありません。測定はオーバーレンジ・アンダーレンジ以外の状態で行うようにしてください。

高い場所の測定

天井や、その他の高い場所の測定には付属の延長棒(0.2~1m 伸縮自在)を使用してください。

電池の残量確認および交換

電池の残量確認は測定中 **BAT CHECK**・キー⑫を押してください。約3秒間デジタル表示部①に“**b 0**”～“**b 9**”迄の数値で表示されます。“**b 0**”が点滅表示された場合には、測定が不可能になりますので電池の交換を行ってください。電池交換は電池格納部⑬の蓋を取り外し、単三電池4本全部を交換してください。長時間の測定を行う場合はACアダプター(別売)のご使用をお勧めします。ACアダプター接続端子⑦に接続してお使いください。

検出部ユニット交換

万が一の検出部⑩の故障に備えて、予備検出部ユニットをお勧めします。イコライザユニット⑭は締付けネジ1本を取り外し、計器本体から引き下げるだけで分離できます。あとは予備検出部ユニットを差し込んで、ネジを締め付けるだけで交換は完了します。
◎ 予備検出部ユニットは計器本体と形式が合ったものをご使用ください。異なった形式の組み合わせ使用については測定値は保証できません。

ご注意

- 1) 本器は温度測定の場合100°Cまで対応していますが、風速および静圧測定時の温度補償範囲は-10~80°Cですので、風速または静圧測定中、検出部⑩が80°C以上の風にさらされないように注意してください。
- 2) 検出部⑩先端の孔や金網にごみ等が付着すると正しく測定できないことがあります。時々柔らかい毛ブラシで掃除するかアルコール、揮発油などで洗浄してください。洗浄の際、必ず電源はオフにしてください。
- 3) 電源投入時、デジタル表示部①に関係のない表示が現れることがあります。液晶の仕様に基づくもので故障ではありません。
- 4) 測定終了後は **POWER**・キー④を押し電源をオフにしてください。なお本器では万一電源を切り忘れた場合でも、下記の条件でオートパワーオフ機能が動作し、約20分後に電源がオフになります。
○表示ホールド機能が動作中
○温度測定機能が動作中
○デジタル表示部①にオーバーレンジまたはアンダーレンジ表示が継続して行われた時
- 5) 電磁波を発生する機器の近くでは、ご使用を避けてください。指示値に影響があり、動作プログラムが壊れるなどの故障の原因になります。無線機をお使いになる場合は風速計の電源をお切りください。
- 6) 手荒い取り扱いが故障の原因となりますので輸送の時は注意してください。(充分なクッションを施し“取扱注意”と明示する。)
- 7) 万一故障が生じた場合はご自身で分解したりせずに販売店までご連絡ください。